YKK AP Press Information ..... 2026 年 11 月 25 日

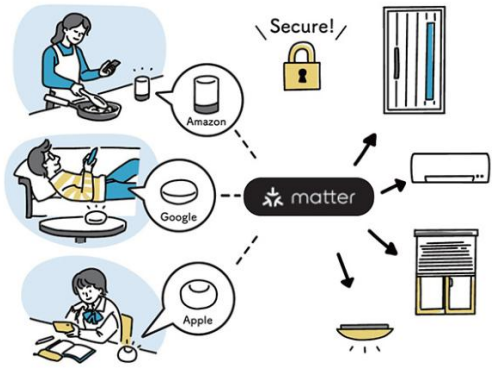
全国 1,111 名に聞く「スマートホームに関する意識・利用実態調査」

関心度は約 64%の一方で「セキュリティ不安」「アプリ乱立」「初期設定の煩雑さ」が導入の壁に

～導入したい機器はエアコンに次いで「防犯カメラ」「玄関の鍵」など防犯関連が上位。
普及の鍵を握る業界標準規格「Matter」による解決に 7 割以上が期待～

YKK AP 株式会社（本社：東京都千代田区、社長：魚津 彰）は、全国の 20 代～60 代以上の男女 1,111 名を対象に「スマートホームに関する意識・利用実態調査」を実施しました。

近年、家電や住宅設備をネットワークでつなぎ、スマートフォンやスマートスピーカーで操作する「スマートホーム」の普及が進んでいます。特に 2026 年は、メーカーの垣根を越えて機器同士をスムーズに連携させる業界標準規格「Matter（マター）（※1）」に対応した住宅設備やハブ製品の展開が本格化し、スマートホームの相互運用性向上など普及に向けた新たな局面を迎えています。こうした市場の急速な変化を受け、生活者のリアルな関心度や導入における課題、そして「Matter」に対する期待度を明らかにすることを目的に、スマートホームに関する意識と利用実態について調査を行いました。



調査結果より、スマートホームは高い関心度と利用定着率を誇る一方で、**「セキュリティ面の不安」「操作アプリの乱立」「初期設定・接続の難しさ」が一般普及への大きな障壁**になっている実態が明らかになりました。今後、業界標準規格「Matter」の普及によってメーカーやシステムの垣根が取り払われ、**セキュリティ性と機器連携の拡張性が両立されることで、スマートホームの導入がさらに加速**していくことが期待されます。

■「スマートホームに関する意識・利用実態調査」概要

調査期間：2026 年 7 月 31 日（金）～8 月 2 日（日）
調査方法：インターネットリサーチ（YKK AP 調べ）
調査対象：全国の 20 代～60 代以上の男女 1,111 名
※本調査の対象者は、スクリーニング調査の回答者より年代・性別構成比（各約 100 名）に合わせてランダムに抽出・実施しています。
※調査表・グラフの数字は、小数第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100%にならない場合があります。

【主な調査結果】

調査結果①：「スマートホーム化」への関心度は 63.6%。特に若い世代で高い関心を示す傾向

調査結果②：スマートホームで活用・導入したい機器は「エアコン」が 60.7%と最多。
「インターホン・防犯カメラ」や「玄関の鍵」など防犯ニーズも上位に

調査結果③：スマートスピーカー所有者の 80.4%が、すでに家電や住宅設備と連携して利用

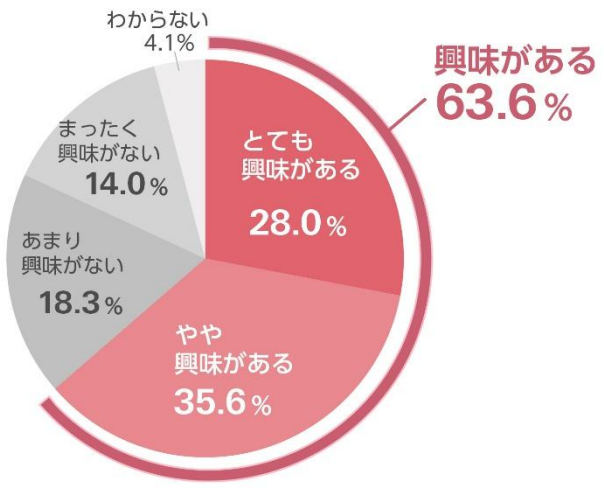
調査結果④：導入の課題は「不正アクセスや個人情報の漏洩が不安（37.0%）」「機器ごとにアプリが異なり管理が面倒（36.2%）」「初期設定や接続が難しそう（34.9%）」が上位に

調査結果⑤：業界標準規格「Matter」の認知率は 42.8%にとどまるも、
その特徴を提示すると 7 割以上が「これまでの不満や不安を解決できそう」と高評価

調査結果①：「スマートホーム化」への関心度は 63.6%。特に若い世代で高い関心を示す傾向

Q: 住宅の「スマートホーム化」に興味・関心はありますか？

(n=1,111)



年代別スマートホームに興味がある割合

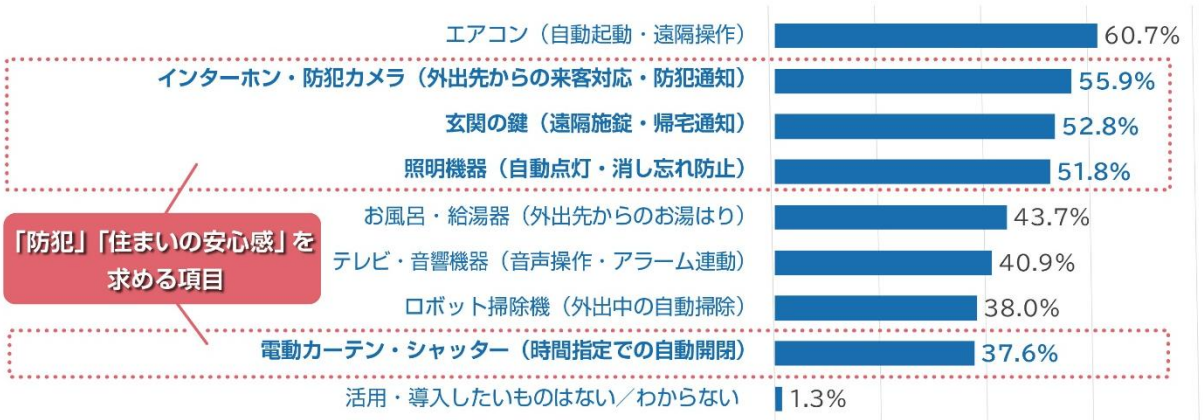
年 代	とても興味がある / やや興味がある
20代	76.1%
30代	84.3%
40代	65.8%
50代	48.6%
60代～	43.2%

住宅のスマートホーム化（家電や住宅設備をネットワークに接続し、スマートフォンなどで遠隔操作・自動化する仕組み）に対する興味・関心を聞いたところ、「とても興味がある（28.0%）」「やや興味がある（35.6%）」と、合わせて **63.6%が関心を示しました。**

年代別で見ると、**30 代で 84.3%、20 代で 76.1%**に達しており、若い世代を中心に非常に高い関心を集めていることがわかります。

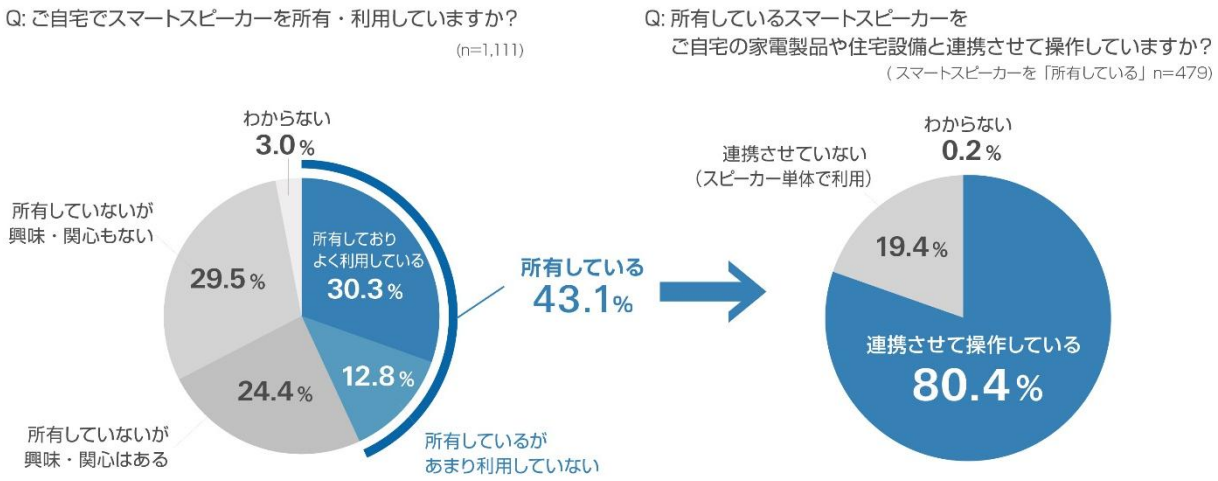
調査結果②：スマートホームで活用・導入したい機器は「エアコン」が 60.7%と最多。
「インターホン・防犯カメラ」や「玄関の鍵」など防犯ニーズも上位に

Q: スマートホームで活用・導入したい機器は何ですか？
（住宅の「スマートホーム化」に「興味がある」と回答 n=707）



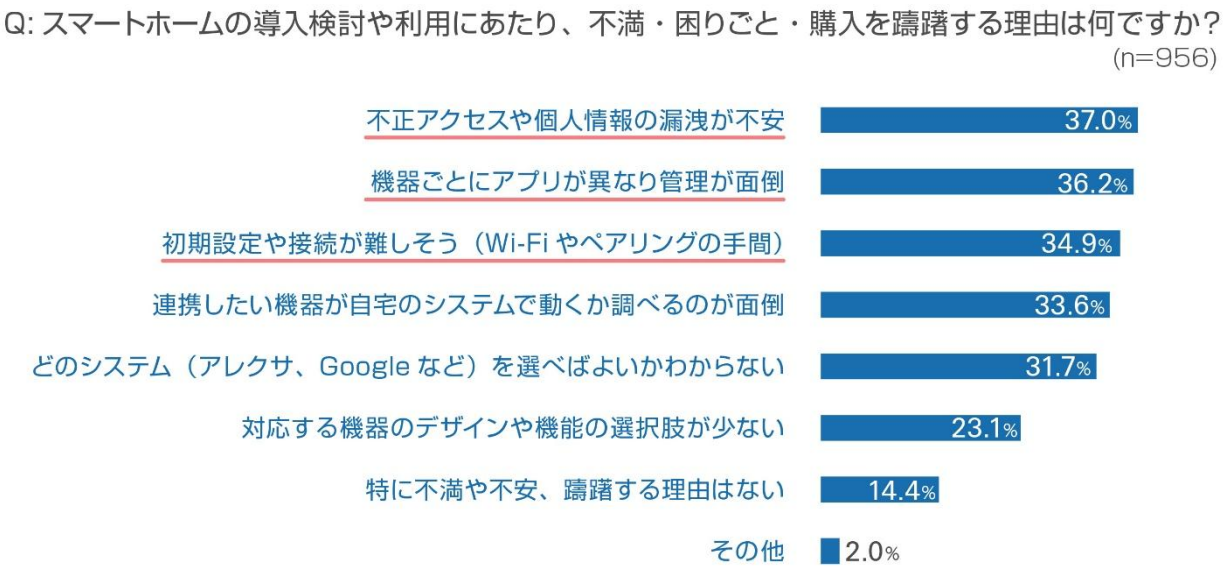
スマートホーム化によって導入・活用したい機器（複数回答）では、**「エアコン（自動起動・遠隔操作）」が 60.7%で最多**となりました。次いで**「インターホン・防犯カメラ（外出先からの来客対応・防犯通知）」が 55.9%、「玄関の鍵（遠隔施錠・帰宅通知）」が 52.8%、「照明機器（自動点灯・消し忘れ防止）」が 51.8%**と続き、**快適性や利便性だけでなく「防犯」「住まいの安心感」を求めるニーズが非常に強い**ことがうかがえます。「電動カーテン・シャッター（時間指定での自動開閉）」も快適性だけでなく防犯ニーズが含まれていると考えられます。

調査結果③：スマートスピーカー所有者の 80.4%が、すでに家電や住宅設備と連携して利用



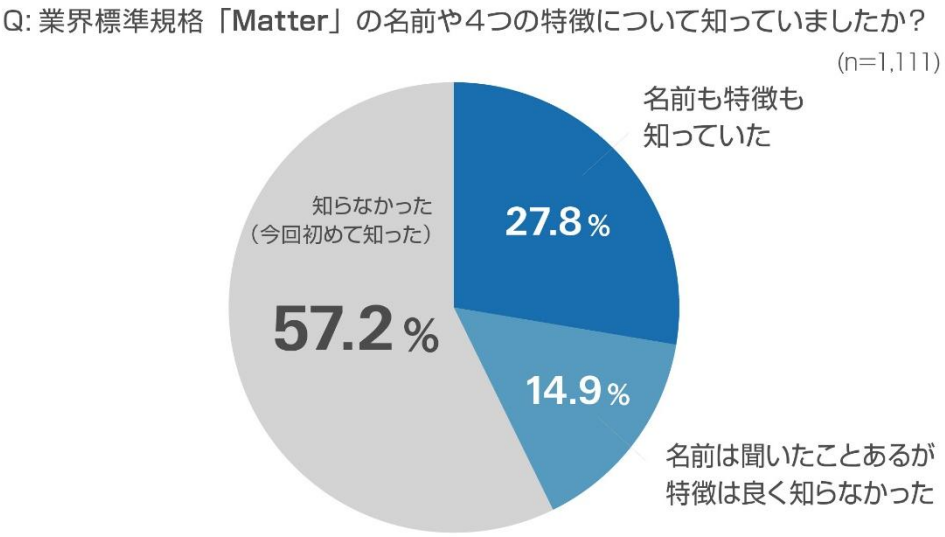
自宅でスマートスピーカーを所有している層（全体の 43.1%）において、80.4%が音楽再生・天気確認などのスマートスピーカー単体での利用にとどまらず、「家電製品や住宅設備と連携させて操作している」と回答。導入したユーザーにおける連携・活用の定着率の高さが示されました。

調査結果④：導入の課題は「不正アクセスや個人情報の漏洩が不安（37.0%）」「機器ごとにアプリが異なり管理が面倒（36.2%）」「初期設定や接続が難しそう（34.9%）」が上位に

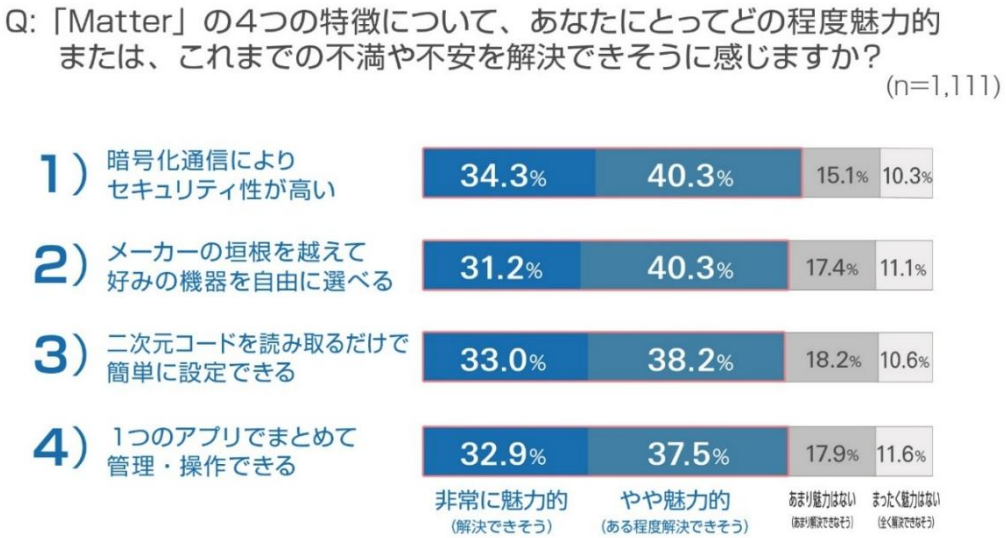


スマートホームの導入検討や利用にあたって懸念・ハードルとなっている点としては、「不正アクセスや個人情報の漏洩が不安（37.0%）」がトップとなりました。また、「機器ごとにアプリが異なり管理が面倒（36.2%）」や「初期設定や接続が難しそう（34.9%）」が続いており、**セキュリティ面の懸念と操作アプリの乱立や初期設定の煩雑さが導入のハードル**となっています。

調査結果⑤：業界標準規格「Matter」の認知率は 42.8%にとどまるも、
その特徴を提示すると 7 割以上が「これまでの不満や不安を解決できそう」と高評価



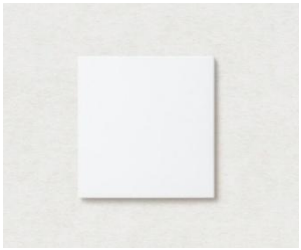
業界標準規格「Matter」の認知度について尋ねたところ、「名前も特徴も知っていた」と回答した人は 27.8%、「名前は聞いたことがあるが、特徴はよく知らなかった（14.9%）」を合わせて **42.8%の認知率**となりました。「知らなかった（57.2%）」が半数以上を占めており、一般的な認知はこれから広がる段階であると言えます。



そこで、「Matter」が持つ代表的な 4 つの特徴（①セキュリティ性、②機器連携、③簡単設定、④一元管理）を提示した上で、それぞれの魅力や課題解決への期待度を尋ねました。その結果、すべての項目で 7 割以上（70.4%～74.6%）が「魅力的（解決できそう）」と回答しました。特に評価が高かったのは**「暗号化通信によりセキュリティ性が高い（74.6%）」**および**「メーカーの垣根を越えて好みの機器を自由に選べる（71.6%）」**であり、生活者が抱えるセキュリティへの不安や機器連携の拡張性の課題に対する強力な解決策として大きな期待が寄せられています。

■調査で明らかになった導入の壁を解消する「Matter」対応スマートホームハブを 12 月 25 日発売

YKK AP は、本調査で明らかになった「セキュリティ面の不安」「操作アプリの乱立」「初期設定の煩雑さ」といったスマートホームの普及の壁を解消できる、業界標準規格「Matter」に対応したスマートホームハブを 2026 年 12 月 25 日から発売します。本商品は、当社のスマートドア（※2）や電動シャッターと接続し、メーカーの垣根を越えて Amazon Alexa、Google Home、Apple Home（※3）などのアプリ一つで一元管理が可能になります。二次元コードを読み取るだけのかんたん設定と強固な暗号化通信により、誰もが安心・快適に理想のスマートホームを実現できる環境を提供します。



スマートホームハブ本体



二次元コードを読み取るだけの簡単設定

【参考】

スマートホームハブ 商品リリース ウェブサイトリンク

https://www.ykkap.co.jp/consumer/products/window/shh

※1：「Matter（マター）」は、異なるメーカーのスマート家電や住宅設備を、メーカーの垣根を越えて相互に接続・操作できるようにするための標準規格です。コネクティビティ・スタンダード・アライアンス™によって開発されました。（ブランド、関連ロゴ、およびマークは、アライアンスの商標であり、すべての権利は留保されています）

※2：スマートドアは電気錠を搭載した玄関ドア・引戸です。

※3：Amazon、Alexa は、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。Google、Google Home は Google LLC の商標です。Apple、Apple Home は Apple Inc.の商標です。